

この子らと

令和6年6月号

命輝く子ども



芋苗植え(吉野)

わくわく鹿児島中央認定こども園



園長 川口公男

星野富弘先生に哀悼の意

4月30日、教え子からショートメールが届きました。「先生、星野先生がおなくなりになりました。私が転職で悩んでいる時に先生から送られてきた星野先生の詩に励まされました。」と。

『幸せという花があるとすれば、そのつぼみのようなものだろうか、辛いという字がある。もう少しで幸せになれそうな気がする。』

星野先生は、中学校の体育の先生として採用されました。体育の授業の際、跳び箱の模範演技で頭部から落下し、首から下が全く動かなくなりました。採用されてわずか2か月後のできごとでした。



鈴の鳴る道

絶望の淵の中で、おかあさんが加えさせてくださったサインペンを使い、わずかに動く口で、心の底から絞り出される詩に、美しい水彩画が添えられました。(詩画集)

神様がたった一度だけ、この腕を動かしてくださるとしたら、母の肩をたたかせてもらおう。ぺんぺん草の実を見て、そんな日が本当にくるのように感じた。(星野富弘)

わたしが星野先生の詩画集を手にした時、美しい水彩画が添えられた、一つ一つの詩に深く感動し、感動を共有としたいと思い、いろいろな機会に、お話の中に、星野先生の詩画集を使わせていただきました。



喜びが集まったよりも、悲しみが集まった方が幸せに近い気がする。

強いものが集まったよりも、弱いものが集まった方が真実に近い気がする。

幸せが集まったよりも、不幸せが集まった方が愛に近い気がする。(星野富弘)

いのちが一番大切だと思っていたころ
生きるのが苦しかった
いのちより大切なものがあると知った日
生きるのがうれしくなった(星野富弘)

星野先生の詩は、人の心に語りかける力があるように思います。

78歳のご逝去に対して心から哀悼の意を表します。 合掌

鹿児島市「こどもの未来応援条例」

鹿児島市は、こどもを「一人一人が様々な個性や能力、大いなる可能性をもったかけがえのない存在」として「こどもの権利」を守るために「こどもの未来応援条例」を定めました。

その中で教育施設の役割を①こどもが主体的に考え、学び、行動することができるようにする。②豊かな人間性、社会性を身に付けることができるように支援する。などを定めました。

「子どもの権利条約」4つの原則

1 命を守られ成長できること

全てのこどもの命が守られ、もって生まれた能力を十分に伸ばし、成長できるように支援を受けることが保障されます。

2 こどもにとって最も良いこと

そのこどもにとって、最も良いことは何かを第一に考えます。

3 意見を表明し、参加できること

こどもは、自分に関係のあることについて自由に意見を表すことができ、おとなは、その意見をこどもの発達に応じて、十分に考慮します。

4 差別のないこと

全てのこどもは、こども自身や親の人種・国籍・性・意見・障害・経済状況などの理由で差別されません。

